「銅の不思議な世界」をさまよいつづける

カッパーズ早川　早川篤史

サーカス団がやって来た! X613

〈 手が勝手に動き、作り上げていく 〉

私達は、早川篤史（息子・1980年生）と早川克己（父・1949年生）の二人で、珍しい親子ユニットcoppers早川（カッパーズハヤカワ）として、2001年より創作活動を開始しました。作家名coppers早川の『coppers』は、もちろん銅のことです。作品は、名前の通り一貫して銅を基本素材としており、併せて銅と亜鉛の合金である真鍮も使っています。モダンでレトロフューチャーな世界の表現――『銅の細胞を持つ生物達が住まう世界』――それがcoppers早川のコンセプトです。よく個展などで、どこで技術を学んだのかと聞かれますが、二人とも芸術系の学校はおろか、美術部にすら入ったことがないので、試行錯誤を繰り返しながら独学で技法を作り上げてきました。また、親子ユニットではありますが、父親がしていました創作活動を息子が引き継いだわけではなく、まったく同じ時に二人で創作を始めたため、二人はユニットでありながらライバルでもあります。2005年の愛知万博の企業館入口オブジェや映画の宣伝用作品など、大きな作品は二人合作のものもありますが、基本的にはそれぞれが一つの作品を最初から最後まで作り上げていきます。作品には設計図はなく、ほとんどデッサンもしないまま作り始めます。この時、頭の中に完成図があるわけでもなく、手を動かしているうちに作品ができ上がっていきます。頭で考えて作るというより、手が勝手に作っていくような感覚です。

〈 どこか温度を感じる温かい質感 〉

技法としては、まず銅板・真鍮板をガスバーナーなどで焼きなましていき、芋槌という先が丸い金槌で叩き出し、固くなったらまた焼きなまし、叩くという作業を何度も繰り返していきます。時には何万回と芋槌をふるい、部品を作っていきます。そうしてでき上がったパーツをガスバーナーを使いハンダ付けし、組み上げていきます。形ができ上がったら、ルーターや紙やすり、金ブラシなどで磨き、その後、サンドブラスト、クレンザーでも磨いていきます。細部までピカピカに磨き上げたあと、適度な濃度に調整した硫黄の液に漬け、染めていきます。染め上げたものは、黒いススがついたような状態になるので、そこから真鍮の柔らかいブラシで革靴磨きをするように磨きこんでいき、最後に透明なコーティングをして完成となります。ちなみに染め上げ、コーティングをしているため、作品は普通に室内に飾っている状態であれば、数十年経ってもほとんど経年変化もありません。でき上がった作品は、黒いような赤いような…とても奥深く味わいある色味をしており、わざと残した芋槌の叩き跡とあいまって、実際は冷たい金属であるにも関わらず、どこか温度を感じる、温かい質感を持っています。この独特な質感は〝銅〟ならではのものだと思っています。樹脂はもちろん、他のどの金属でも得られない、重厚感がありながらもどこか温かく味わいある質感に、創作活動から18年経った今でも、日々、魅了されています。

Code Messenger 8613

〈 自分のアイデンティティとなった銅 〉

創作活動を始めるきっかけとなったのは、我が家に昔からあった銅の壁掛け人形でした。玄関にずっと飾ってあったその人形は、数十年の時を経て、とても味わいのある色味に変わっていきました。そのことに気付き、銅という素材の面白さに惹かれて、この素材を使って作品作りをしようと思い立ちました。自然に経年変化した銅の色味を再現するため、色々な手法を試し、前述したような技法にいきつきました。私達は、これまでに動物や乗り物、抽象的なものなど、さまざまな作品を発表してきていますが、銅と真鍮という素材を変えようとは一度も思いませんでした。そしてこれからも、その気持ちが変わることはないと思います。そこには、もちろん純粋に銅の味わいが好きだという思いもありますが、なによりも創作活動を続ければ続ける程に、いつも銅という素材に助けられていると、ひしひしと感じているからです。銅という素材の良さを生かして感じてもらおうと思うことで、新たな作品のデザインが生まれてきますし、それが、少し尖ったデザインのものであったり、SF的になりすぎた作品であっても、銅という素材のフィルターを通ることで、自然と温かさや味わい、そしてどこか懐かしさを感じて頂ける作品へと昇華されるのではないかと思っています。今では作家として新しい挑戦や模索をしていく中で、銅という素材が、常に変わらない自分のアイデンティティとなっていると感じています。18年、日々、銅と共に歩んできた作家人生ですが、これからの日々も、この奥深い銅という素材に真摯に向き合い、楽しみながら、自分達なりの銅の不思議な世界を表現していきたいと思っています。

怪鳥二式

械魚 No.556

トラベル

coppers 早川（カッパーズ ハヤカワ）

早川篤史と早川克己（父）によるユニット。
作品によっては2人合作のものもあるが、基本的には、それぞれが一つの作品を最初から最後まで作り上げている。
互いの作品に刺激を受け合い、切磋琢磨しながら作品作りに励む。

早川 篤史氏

2001年　銅作品の制作活動を開始（二人は、独学で同時に制作開始）
2003年　「ライブマーケット'03」にて、グランプリ受賞（名古屋）
2004年　東京都現代美術館「球体関節人形展」に押井守監督依頼作品展示
　　TV番組「たけしの誰でもピカソ」アートバトル出演
2005年　押井守監督の依頼により、愛知万博にてオブジェを展示
2007年　第34回日本銅センター賞受賞
2008年　四国「坂の上の雲ミュージアム」にて、司馬遼太郎氏へのオマージュ展示
2011年　神戸アートマルシェ等　出品
2013年　アートフェア東京2013等　出品
2015年　Young Art Taipei（台湾）等　出品
2017年　Infinity Japan(台湾)、Asia Contemporary Art Show(香港)等 出品
2018年　Affordable Art Fair（シンガポール）等　出品

2007年より、全国百貨店等にて個展開催

URL　http://www.coppers-hayakawa.com